

2023 年度 1Q 決算説明会 主な質疑応答  
(2023 年 8 月 7 日開催)

<電子・先端プロダクツ>

Q1：(スライド 7) 球状アルミナ、球状シリカは民生向けの需要減少により、1Q の出荷が前年比で減少したとのことだが、サーバー向けや車載向けなどの販売動向は？

A1：民生向けの需要が大幅に減少しているが、サーバー向けなど高機能品の出荷は比較的堅調であった。車載向けは欧州市場などで需要が回復傾向にある。

Q2：球状シリカや高機能フィルムなど半導体関連製品の販売の回復はいつ頃を想定しているのか？

A2：球状シリカや高機能フィルムの半導体用途は足元で市中在庫の消化が進んでおり、今後は実需ベースの販売となる。高機能フィルムの電子部品用途は 1Q 時点で既に市中在庫の消化が進んでいる為、半導体用途よりも早い回復が期待できる。

<ライフイノベーション>

Q3：ライフイノベーションが上期の営業利益予想を上方修正したのは、足元の検査キットの需要動向が期初の想定よりも良いからか？

A3：新型コロナ検査キットの出荷が想定を下回る見通しだが、昨シーズンからインフルエンザの流行が続いたこともあり、インフルエンザ検査キットやコロナ・インフル同時検査キット（コンボキット）の需要が想定を上回る見通し。加えて RS ウイルス、A 群溶連菌等の検査需要も増加しており、その他の検査キットの出荷も増加する見通し。

Q4：昨シーズンからインフルエンザの流行が続くなか、期初予想であるインフルエンザワクチンの出荷量 1,100 万本について、どのように見込んでいるのか？

A4：生産は順調に進んでおり、期初の想定通り 9 月からの出荷を予定している。足元でワクチンの早期接種の声が高まっていることを考慮し、9 月、10 月に最大限出荷が出来るよう体制を整えている。

<エラストマー・インフラソリューション>

Q5：青海工場での死亡事故によって、クロロプレンゴムの生産や出荷に影響は出ているのか？

A5：事故の影響により 7 割程度の生産となっているが、需要が想定以上に低迷していることもあり、在庫での対応も含め、現時点で出荷に影響は出していない。事故調査委員会の調査において安全が確認され次第、停止設備の稼働を見込んでおり、今後も影響が出ない見通し。

Q6：(スライド 5) 米国クロロプレンゴム製造子会社の DPE で修繕費・労務費が増加した背景は？

A6：インフレによる修繕費・労務費などの固定費が増加。加えて、プラント設備の老朽化への対応などにより修繕項目も増加。

<ポリマーソリューション>

Q7：2022年度以降、収益性が悪化しているが、収益改善に向けた対応策は？

A7：2年前にMS樹脂の能力を倍増させたことで償却負担が増えたが、需要が低迷した時期と重なり稼働率が上がっていない。また、当社の機能樹脂製品は自動車向けより民生や雑貨向けの割合が高い為、足元での需要減の影響を大きく受けている。今後は需要回復により収支が改善すると考えている。

<株主還元>

Q8：上期予想を下方修正し、通期予想は精査中とのことだが、業界環境が厳しいなか著しい改善は期待しづらいと想定される。通期予想が達成できなかった場合、総還元性向50%に基づいて減配も検討するのか？

A8：通期の見通しが判断できた段階で、来年度以降の業績や市場での評価などを総合的に考慮して、年間配当についても改めて示したいと考えている。なお、中間配当については今回発表した上期業績予想から著しい変動が無い限り、期初予想通り60円とする予定。

以上